2023年08月04日　掲載

窓口支援事例　【栃木県 知財総合支援窓口】

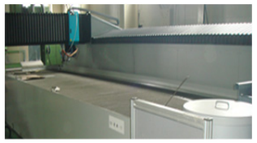
企業情報

株式会社雀宮産業			
所在地	栃木県宇都宮市五代１－２－４		
ホームページ URL	http://suzumenomiya.jp/		
設立年	１９６４年	業　種	製造業
従業員数	４５人	資本金	２０００万円

企業概要

株式会社雀宮産業は、『お客様第一主義』を基本とし、より良い製品を社会に提供することで貢献し、 地元、地域とともに常に発展し続けるよう方針を定め、品質方針と年度目標を設定して取り組んでいます。特にウォータージェット、マシニングセンター、溶接・組み立て加工の分野で国内トップレベルの実績を誇っています。

当社は事業活動を展開するにあたっては法規制、社会規範及びその精神を順守しています。



国内最大最強級の
ウォータージェット

自社の強み

当社はウォータージェットとマシニングセンターの技術融合による難削材（特にチタン）の精密加工に長年の技術蓄積があり、５軸形状切断対応（CFRP・チタン・SUS・インコネル・セラミック他）、大型材料形状切断対応、少ロットから多ロット、小物から大物、薄物から厚物形状の加工が可能です。各設備単独でも最適化して加工できます。

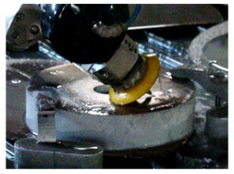
様々なノウハウを難削材の精密加工という立場から、工法を組み立て直すことで、高精度かつ高効率な加工を提案、実施でき、高度なQ（品質）・D（納期）・C（価格）を達成しています。

超大型５面門型
マシニングセンター

一押し商品

当社は、難削材、特にチタンや厚物ガラス製品の加工には多くの実績をもっています。航空機部品や様々な業種からの難加工材料部品加工に対する絶対的自信を持ち、さまざまな商品群の加工実績があります。

委託製造を中心として、顧客満足度の高いものづくりを行っています。



５軸ウォータージェット
とマシニングセンターの
技術融合

知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社はエンジン部品加工に係るメイン事業発注先の変化の兆しを掴み、近い将来の売上利益減少に備えてチタン材加工で長く培った技術・ノウハウを活かして航空機分野以外へ進出したいとのことで窓口へ相談されました。

最初の相談概要

同社は売上利益が好調の中、新たに新工場設立の設備投資を行い、ウォータージェットとマシニングセンターの加工技術に関するコアとなる特許権を取得し、治具関連の特許も出願して知財を効果的に事業に活かせるようになってきました。喫緊の課題として新規部品加工へ進出、新規顧客の開拓、品質体制の強化、安定量産化体制の整備について検討を開始し、特許取得や秘密情報管理に加えて、自社ノウハウ管理並びに人材育成等のためのノウハウ集の整理も進め、他社との差別化を進めるためウォータージェット加工に係る研究所設立に向けて検討を開始しました。

その後の相談概要

同社はコロナ禍での航空機部品加工の売上減少の対策の一つとして、その製造で培った設計、工程管理、品質管理、生産管理能力を自社開発したフェースシールド分野で拡大させました。さらに工程外注による一部製造や販売戦略に関して指導を受け、社外への契約書の作成・提示、様々な広告手法、WEBを通しての営業及び販売手法を学び実践することで成果を上げました。一方で主となるウォータージェット加工技術を特許出願し、それ以外の重要技術・ノウハウを書面化し公証人役場にて確定日付を取得するなど、これまで指導いただいた営業秘密管理の一つの手法を実施しました。

窓口を活用して変わったところ

新事業の展開において他社を意識した知財権取得とノウハウ保護の区分けが見えてきており、販売店との契約書や製品開発における医療関係者との秘密保持契約書、従業員に対する就業規則等の契約書についても専門家の助言を得て見直しを進めています。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

知的財産を経営に活かすことを考えている企業の方は、一度支援総合窓口を訪問されて、話をすることから、何らかのヒントが得られると思います。

窓口担当者から一言　（氏名：樋田　治三）

当社の誠実さと真摯に業務に取り組む姿勢はコロナ禍でも何ら変わっていません。新市場に向けて今まで培った技術・ノウハウを活用する一方で、競合他社や中長期を踏まえた知財による保護の検討はこれからであり、今後も支援を続けていきたいと思います。

2021年3月30日　掲載

窓口支援事例　【栃木県 知財総合支援窓口】

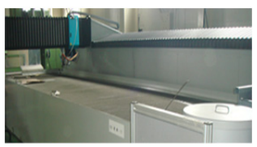
企業情報

株式会社雀宮産業			
所在地	栃木県宇都宮市五代１－２－４		
ホームページ URL	http://suzumenomiya.jp/		
設立年	１９６４年	業　種	製造業
従業員数	４５人	資本金	２０００万円

企業概要

株式会社雀宮産業は、『お客様第一主義』を基本とし、より良い製品を社会に提供することで貢献し、 地元、地域とともに常に発展し続けるよう方針を定め、品質方針と年度目標を設定して取り組んでいます。特にウォータージェット、マシニングセンター、溶接・組み立て加工の分野で国内トップレベルの実績を誇っています。

当社は事業活動を展開するにあたっては法規制、社会規範及びその精神を順守しています。



国内最大最強級の
ウォータージェット

自社の強み

当社はウォータージェットとマシニングセンターの技術融合による難削材（特にチタン）の精密加工に長年の技術蓄積があり、５軸形状切断対応（CFRP・チタン・SUS・インコネル・セラミック他）、大型材料形状切断対応、少ロットから多ロット、小物から大物、薄物から厚物形状の加工が可能です。各設備単独でも最適化して加工できます。

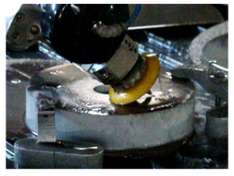
様々なノウハウを難削材の精密加工という立場から、工法を組み立て直すことで、高精度かつ高効率な加工を提案、実施でき、高度なQ（品質）・D（納期）・C（価格）を達成しています。

超大型５面門型
マシニングセンター

一押し商品

当社は、難削材、特にチタンや厚物ガラス製品の加工には多くの実績をもっています。航空機部品や様々な業種からの難加工材料部品加工に対する絶対的自信を持ち、さまざまな商品群の加工実績があります。

委託製造を中心として、顧客満足度の高いものづくりを行っています。



５軸ウォータージェット
とマシニングセンターの
技術融合

知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社はエンジン部品加工に係るメイン事業発注先の変化の兆しを掴み、近い将来の売上利益減少に備えてチタン材加工で長く培った技術・ノウハウを活かして航空機分野以外へ進出したいとのことで窓口へ相談されました。

最初の相談概要

同社は売上利益が好調の中、新たに新工場設立の設備投資を行い、ウォータージェットとマシニングセンターの加工技術に関するコアとなる特許権を取得し、治具関連の特許も出願して知財を効果的に事業に活かせるようになってきました。喫緊の課題として新規部品加工へ進出、新規顧客の開拓、品質体制の強化、安定量産化体制の整備について検討を開始し、特許取得や秘密情報管理に加えて、自社ノウハウ管理並びに人材育成等のためのノウハウ集の整理も進め、他社との差別化を進めるためウォータージェット加工に係る研究所設立に向けて検討を開始しました。

その後の相談概要

同社はコロナ禍による航空機関連産業による受注減により大きな痛手を受けながら事業構成を見直し、航空機部品加工で長年培ったものづくりの経験を活かして、一部取組実績のある医療関連補助具事業への本格的な取り組みを開始し、初期投入品である歯科医療従事者向けフェースシールドを上市しました。その間、窓口強化事業の専門家である中小企業診断士、弁理士、弁護士の派遣を通して、販売戦略のための情報発信の強化、知財戦略への対応を進め、商標（フロントガード®）を登録、部分意匠を出願しました。また、今後の事業展開のため契約書関連の見直しに向けて検討を開始しました。

窓口を活用して変わったところ

新事業の展開において他社を意識した知財権取得とノウハウ保護の区分けが見えてきており、販売店との契約書や製品開発における医療関係者との秘密保持契約書、従業員に対する就業規則等の契約書についても専門家の助言を得て見直しを進めています。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

知的財産を経営に活かすことを考えている企業の方は、一度支援総合窓口を訪問されて、話をすることから、何らかのヒントが得られると思います。

窓口担当者から一言　（氏名：樋田　治三）

当社の誠実さと真摯に業務に取り組む姿勢はコロナ禍でも何ら変わっていません。新市場に向けて今まで培った技術・ノウハウを活用する一方で、競合他社や中長期を踏まえた知財による保護の検討はこれからであり、今後も支援を続けていきたいと思います。

窓口支援事例　【栃木県 知財総合支援窓口】

2018年8月29日掲載　旧原稿

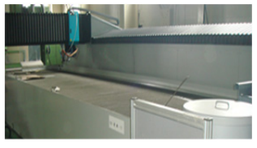
企業情報

株式会社雀宮産業			
所在地	栃木県宇都宮市五代１－２－４		
ホームページ URL	http://suzumenomiya.jp/		
設立年	１９６４年	業　種	製造業
従業員数	４５人	資本金	２０００万円

企業概要

株式会社雀宮産業は、『お客様第一主義』を基本とし、より良い製品を社会に提供することで貢献し、 地元、地域とともに常に発展し続けるよう方針を定め、品質方針と年度目標を設定して取り組んでいます。特にウォータージェット、マシニングセンター、溶接・組み立て加工の分野で国内トップレベルの実績を誇っています。

当社は事業活動を展開するにあたっては法規制、社会規範及びその精神を順守しています。



国内最大最強級の
ウォータージェット

自社の強み

当社はウォータージェットとマシニングセンターの技術融合による難削材（特にチタン）の精密加工に長年の技術蓄積があり、５軸形状切断対応（CFRP・チタン・SUS・インコネル・セラミック他）、大型材料形状切断対応、少ロットから多ロット、小物から大物、薄物から厚物形状の加工が可能です。各設備単独でも最適化して加工できます。

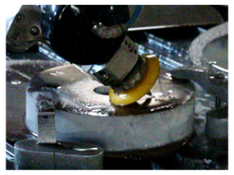
様々なノウハウを難削材の精密加工という立場から、工法を組み立て直すことで、高精度かつ高効率な加工を提案、実施でき、高度なQ（品質）・D（納期）・C（価格）を達成しています。

超大型５面門型
マシニングセンター

一押し商品

当社は、難削材、特にチタンや厚物ガラス製品の加工には多くの実績をもっています。航空機部品や様々な業種からの難加工材料部品加工に対する絶対的自信を持ち、さまざまな商品群の加工実績があります。

委託製造を中心として、顧客満足度の高いものづくりを行っています。



５軸ウォータージェット
とマシニングセンターの
技術融合

知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社は銀行関連のビジネスコンテストで受賞され、高い技術評価を受けた。相談を受けた当初は単なる加工技術の組み合わせと思われたが、同社は精密加工技術と加工品歩留り向上、さらに難加工材料に関する加工歪みを除去できるハイスピードの工法を検討しており、これらの権利を取得したいということで窓口を訪問された。

最初の相談概要

同社は主要顧客の設計図面から、ウォータージェットとマシニングセンターでの加工方法を検討した結果、加工歪みを取り、歩留りの向上とプロセス自体のスピードアップが可能になることが判明し、この方法自体を権利化することを試みた。加工方法自体にノウハウを注ぐことで、より合理的な方法で加工することが可能になり、顧客満足度も高いものとなった。

その後の相談概要

窓口訪問と、同社の加工現場への訪問を続けることで、真摯な取り組みが多くの実際的で新規な加工方法を見出しており、ノウハウの蓄積と営業秘密が重要になってきていることをご理解していただき、窓口強化事業の専門家である弁護士派遣を通して、方向性をご理解いただいた。

窓口を活用して変わったところ

高度な技術であることの理解、技術の本質は何であるかが、いわゆるノウハウ的なものから見えてきている。大手の発注元との付き合い方も、契約作成や同社の理念をハッキリ示すことで理解されていくことが分かりつつある。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

知的財産を経営に活かすことを考えている企業の方は、一度支援総合窓口を訪問されて、話をすることから、何らかのヒントが得られると思います。

窓口担当者から一言　（氏名：山内　通秀）

何よりも誠実さと真摯に徹底して仕事を進める同社の姿勢が本来の顧客との関係を良くし、受発注も順調に推移していることが分かる。大企業と対等に業務を進めるための技術的優位性がこの先も続き、権利化とノウハウ管理が徹底されることに対し今後も支援を続けたいと思う。

窓口支援事例　【栃木県 知財総合支援窓口】

2016年04月15日　掲載　旧

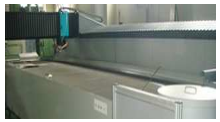
企業情報

株式会社雀宮産業			
所在地	栃木県宇都宮市五代１－２－４		
ホームページ URL	http://suzumenomiya.jp/		
設立年	１９６４年	業　種	製造業
従業員数	４５人	資本金	１０００万円

企業概要

株式会社雀宮産業は、『お客様第一主義』を基本とし、より良い製品を社会に提供することで貢献し、 地元、地域とともに常に発展し続けるよう方針を定め、品質方針と年度目標を設定して取り組んでいます。特にウォータージェット、マシニングセンター、溶接・組み立て加工の分野で国内トップレベルの実績を誇っています。

当社は事業活動を展開するにあたっては法規制、社会規範及びその精神を順守しています。



国内最大最強級の
ウォータージェット

自社の強み

当社はウォータージェットとマシニングセンターの技術融合による難削材（特にチタン）の精密加工に長年の技術蓄積があり、５軸形状切断対応（CFRP・チタン・SUS・インコネル・セラミック他）、大型材料形状切断対応、少ロットから多ロット、小物から大物、薄物から厚物形状の加工が可能です。各設備単独でも最適化して加工できます。

様々なノウハウを難削材の精密加工という立場から、工法を組み立て直すことで、高精度かつ高効率な加工を提案、実施でき、高度なQ（品質）・D（納期）・C（価格）を達成しています。

超大型５面門型
マシニングセンター

一押し商品

当社は、難削材、特にチタンや厚物ガラス製品の加工には多くの実績をもっています。航空機部品や様々な業種からの難加工材料部品加工に対する絶対的自信を持ち、さまざまな商品群の加工実績があります。

委託製造を中心として、顧客満足度の高いものづくりを行っています。

５軸ウォータージェット
とマシニングセンターの
技術融合

知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社は銀行関連のビジネスコンテストで受賞され、高い技術評価を受けました。相談を受けた当初は単なる加工技術の組み合わせと思われましたが、同社は精密加工技術と加工品歩留り向上、さらに難加工材料に関する加工歪みを除去できるハイスピードの工法を検討しており、これらの権利を取得したいということで窓口を訪問されました。

最初の相談概要

同社は主要顧客の設計図面から、ウォータージェットとマシニングセンターでの加工方法を検討した結果、加工歪みを取り、歩留りの向上とプロセス自体のスピードアップが可能になることが判明し、この方法自体を権利化することを試みました。加工方法自体にノウハウを注ぐことで、より合理的な方法で加工することが可能になり、顧客満足度も高いものとなりました。

その後の相談概要

窓口訪問と、同社の加工現場への訪問を続けることで、真摯な取り組みが多くの実際的で新規な加工方法を見出しており、ノウハウの蓄積と営業秘密が重要になってきていることをご理解していただき、窓口機能強化事業の専門家である弁護士派遣を通して、方向性をご理解いただきました。

窓口を活用して変わったところ

高度な技術であることの理解、技術の本質は何であるかが、いわゆるノウハウ的なものから見えてきています。大手の発注元との付き合い方も、契約作成や同社の理念をハッキリ示すことで理解されていくことが分かりつつあります。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

知的財産を経営に活かすことを考えている企業の方は、一度知財総合支援窓口を訪問されて、話をすることから、何らかのヒントが得られると思います。

窓口担当者から一言　（氏名：山内　通秀）

何よりも誠実さと真摯に徹底して仕事を進める同社の姿勢が本来の顧客との関係を良くし、受発注も順調に推移していることが分かります。大企業と対等に業務を進めるための技術的優位性がこの先も続き、権利化とノウハウ管理が徹底されることに対し今後も支援を続けたいと思います。